

# 未来に伝えたい「まいばらの水」12選

深い山々が育んだ米原の美しい湧き水。このコーナーでは、「未来に伝えたい。まいばらの水」に選ばれた12か所をシリーズでお伝えしてきましたが、7月からは番外編として、地域と水の関わりについてお届けしています。

番外編③

vol.15



まいばらの水  
イメージキャラクター  
スイナちゃん

## 暮らしを支える水

現代では上下水道が整備され、水道の蛇口をひねれば簡単に水が出て、汚水も目に見えない下水道で処理されていますが、水道が普及するまでは、山の谷水、川の水、湧水、地下水（井戸水）が直接利用されてきました。



▲ 今も残る川に設けられた洗い場「カワト」(醒井)

山の谷から竹管で水を引き、家の中の「棚池」と呼ばれる小さな池へと取り込んだり、川の水を取水して水路をつくり集落内へ張り巡らせたり、川には「カワト(カワド)」と呼ばれる洗い場もあちこちにありました。湧水は年中水温が一定で、冬は暖かく、夏は冷たいため、昔の人には重宝されました。水が少ない地域では、湧水地や川まで水を汲みに行き、水甕（みづか）に溜めて利用したり、近隣の家からもらい水をしていたりしたところもあります。また、この水でも同じではなく、金気（かね）、軟水、硬水（中硬水）など地域によって特徴がありました。同じ集落の中でも、あるところを境にして水質が違ふところもあり、昔の人はこれを自分たちの知恵で見抜き、使い分けていたのです。

水汲み場や洗い場は、共同利用されていたものも多く、そこには水利用のルールがあり、地域のコミュニケーションの場ともなっていました。ここに、今の時代にはないコミュニティがあり、地域の水と人々がとても身近なものとしてつながり、大切に守られてきた姿があります。



▲ ケカチの水の水汲み (上野)



▲ 現存する井戸



▲ 年中水温が一定の湧水。夏は冷蔵庫代わりに…